

# きずな

SENBI

2023年4月

第2302号

## 《第43期を迎えて》

代表取締役社長  
中田 義秀

第43期が始まりました。

第42期の決算は現在最終的な取りまとめをしていますが、概算として予算に対して達成率98%となる見込みです。利益に関しては、予算通りの数字を確保できる見込みです。

特に前期は、年間を通じて全体的に予算額を下回っていましたが、最終の追込みの結果、期末には予算額に近い数字を残すことができました。これも皆様のご尽力の賜物と感謝しています。

さて、3年間もの間感染防止対策に振り回され、我々の業界にも大きな影響を及ぼした新型コロナウイルスですが、5月8日から感染症法上の位置付けが現在の2類から季節性インフルエンザと同じ第5類に変更される予定です。また、これに先立ちマスクの着用も先月13日から緩和されるなど、人の動きもコロナ禍以前と同じ状態に戻りつつあると考えられますが、皆様は引き続き感染防止対策に重きを置いて行動されるようお願いいたします。

そして、感染防止の緩和対策との相関関係により、経済の持ち直しに期待したいところですが、コロナ禍の影響に加えてウクライナ情勢などの世界的な閉塞感により、物価、コスト、最低賃金など全て上昇傾向にあり、業界の動きは依然として鈍い状況であると言えますので、各部署長におかれては、予算達成に向け全力で向き合ってチャレンジしてください。

また、このような厳しい環境の中にありながら、国の強力な指導の下、大企業では大幅な賃上げが実行されようとしております。

当社としても、今後、一人一人が新規物件の開拓や価格交渉、受注物件の見直しなど積極的に取り組んでいただいて、その結果として皆さまにできる限り利益を還元していきたいと考えています。

皆様とともに良い仕事をして、お客様に信頼される会社を目指しましょう。

一方、令和4年中に生まれた新生児は統計開始以来、初めて80万人を割り、一段と少子高齢化が進んでいることを表しています。今や多くの企業の定年は60歳から65歳となり、当社も例に漏れず、従業員の高齢化対策は避けて通れない喫緊の課題として捉えています。

会社としても、高齢者の方を会社の大きな戦力として位置付けし、福利厚生面を含めて、時代の流れに適應した働きやすい職場としての環境づくりに鋭意努力してまいります。

春は野山には新しい芽が吹き、美しい草花が咲きほころぶ季節です。私たちの住んでいる身近な所には、心を癒してくれる四季折々の自然があります。

その季節の息吹の中に身を委ね、心身のリフレッシュされるなど、健康には十分ご留意いただき、これからも充実した毎日を過ごされることを切に願い、新年度を迎えてのあいさつとします。



# 人事・組織

## 【令和5年4月1日付け人事異動】

### 《所属》

業務推進部 部長(兼)  
 総務経理部 次長  
 三次営業所 主任  
 営業推進部

### 《氏名》

坂本 裕二  
 真宅 陽子  
 堀江 直弘  
 後燈明 秀幸

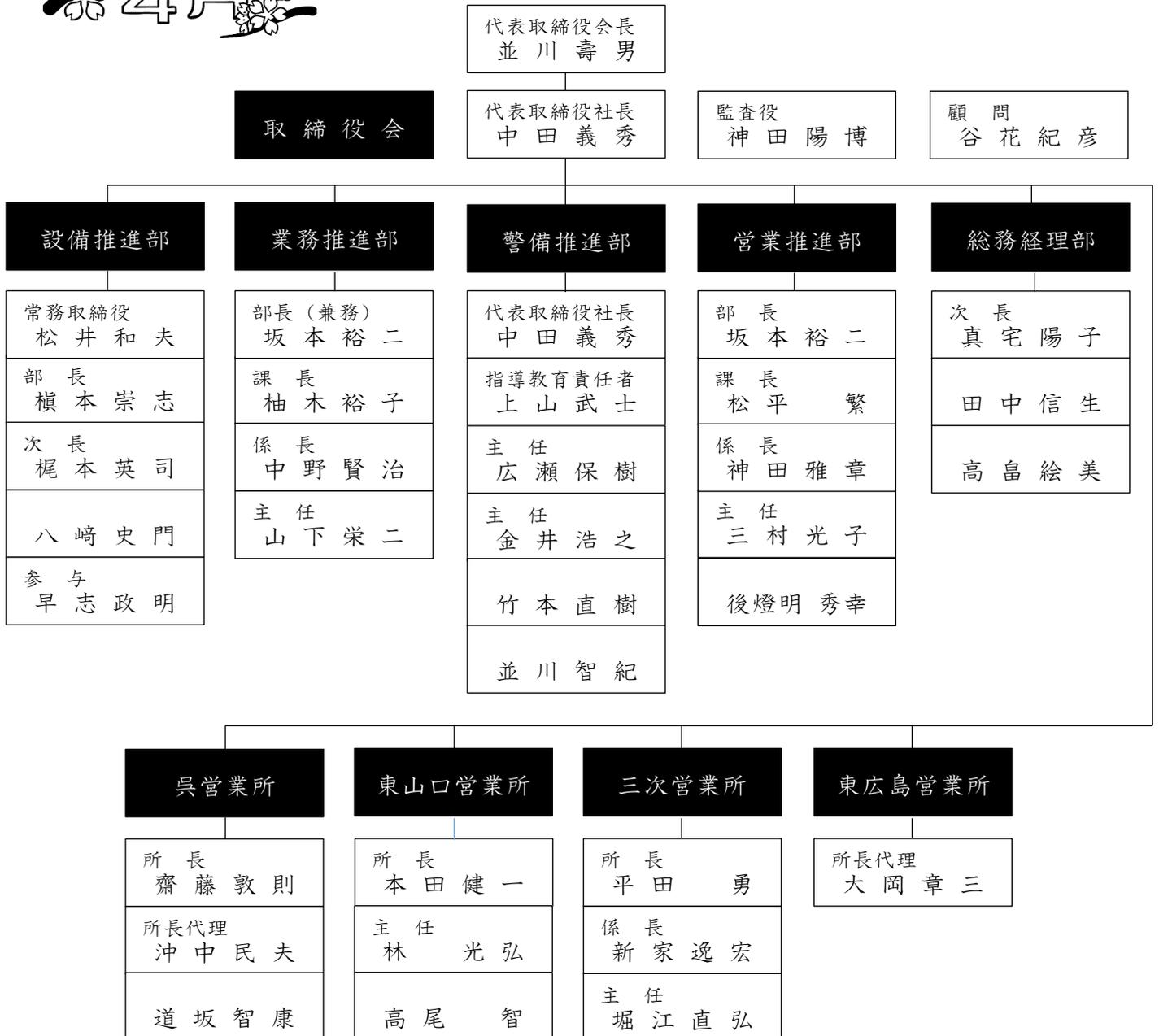
### 《旧所属》

営業推進部 部長  
 総務経理部 課長  
 三次営業所  
 東広島営業所



## 【組織図】

(令和5年4月1日)



## センビの変遷

皆さんは、株式会社センビがどのように誕生したのかご存じでしょうか。  
創業の人「並川会長」から、創業に当たっての色々な逸話を聴取できましたので紹介します。

### 《会社誕生までの逸話》

並川会長の最終学歴は、関西大学です。

学生生活は、多くの友人に囲まれ野球に麻雀に明け暮れるなど、4年間を謳歌されたそうです。

その思いの強い大学の大先輩に、後に並川会長に大きな影響力を与えることになった方の存在があります。写真を見ていただくと分かります？が、昭和の名俳優「鶴田浩二」氏です。ちなみに横の女性は、並川会長のご令室です。

並川会長は、この大先輩である鶴田氏に、卒業後、懇意にしてもらい、久しく付き合いが続いたそうです。

このように愛して止まない思い出の大学の所在地が大阪府の千里山で、この千里山こそが会社創立時の社名に大きな係わりを持つことになります。



〔鶴田浩二氏〕

### 《会社の創立》

並川会長は、鶴田氏から何時も「人間の縁を大切に生きてよ。」と云われていたそうです。その言葉が、並川会長の現在の生きざまとなっています。

そしてこの言葉を形にしたのが会社の創立だそうです。並川家の次男でありながら、縁ある一族と知人の繁栄と幸せを願い、昭和56年4月に「千美産業株式会社」を創立しましたが、その際、社名は大学所在地を念頭に、「千里山」の「里」を会社の業種から「美」に代えて「千美」としたそうです。ここにも母校への強い思いれが感じられます。

### 《会社の沿革》

千美産業株式会社は、創立1年半後には資本金を倍増（800万円）、平成4年には2千万円に増資するなど、着実に発展してきました。

また、本社社屋も創立当初は中区鶴見町の間借りでしたが、昭和62年には中区舟入川口町へ、昭和63年には西区草津新町に移転します。

さらには、平成4年11月に社名を「株式会社センビ」に変更するとともに、平成7年9月に本社社屋を西区庚午南に移転し現在に至っています。



〔現在の本社社〕

### 《会長の思い》

並川会長は当年81歳になりましたが、現在まで鶴田先輩の言葉どおり人との縁を大切に生きてこられました。

センビは今年43期目を迎えました。第50期には年商10億円になることを目指し、皆さんが良い夢を持つことのできる人生を歩んでもらうことを願い、これからも鶴田先輩の言葉を大切にしながら、微力ながら会社の発展のために元気で頑張りたいと言っておられました。

## お知らせ

### — マスクの着用 —

皆さんもご存じのとおり、3月13日からマスクの脱着が「個人の判断」になりましたが、会社としては、次のとおり取扱いますのでお知らせします。

#### 《基本的に会社内、現場事務所では着用》

感染防止の観点から、またお客さんの不安を払拭することを目的として、勤務時間内の事務所、現場事務所（防災センターなど）では、マスクの着用を継続します。

また、屋外での作業現場では、熱中症対策としてマスクを脱着する場合の除き、マスクを着用しての作業をお願いします。

#### 《個人判断できる場合》

通勤、プライベート時間は、原則マスクの着用は個人判断としますが、感染防止対策には意を用いてください。



#### 《その他》

- 来社されたお客様には、出来る限りマスク着用のご協力をお願いしてください。
- 元請現場では、元請会社の管理者の指示に従ってください。

## 編集後記

### — 行楽に出かけよう —

「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」この句は、歌人「清少納言」によって書かれた「枕草子」の冒頭に出てきます。

この句は「春は、夜がほのぼのと明けようとしている頃、だんだんと白んでいく山際の辺りがいくらか明るくなって、紫かかっている雲が横に長く引いている様子が良い。」という意味だそうです。

清少納言は、この春に続いて「夏は夜。・・・」「秋は夕暮れ。・・・」「冬はつとめて。・・・」とそれぞれの四季でその季節を一番感じる様をこの枕草子で詠んでいます。

私にとって春を一番感じるのは、庭先に群なって咲いている芝桜であり、山中にたくましく咲くツツジの姿などの草花です。

人それぞれ春夏秋冬の感じ方は異なりますが、総じて春は心豊かにする印象があり、明るいイメージを持たれる方が多いのではないのでしょうか。

4月は気温も緩み、いろんな草花が咲きほころび、旬の山菜も出てきます。

社長の挨拶にもありまじょうに、春が来た喜びを体一杯に感じ、心の栄養のため行楽に出かけてみようと思っています。

